

■目的

静岡県が全国で勝つために必要なこと（選手育成の視点で）を明確にする

■分析対象

2回戦 静岡県 vs 京都府 3－1  
3回戦 静岡県 vs 神奈川県 0－2  
3回戦 広島県 vs 群馬県 4－1  
準決勝 広島県 vs 青森県 1－0

■報告対象者

コーチングスクールおよび育成に携わる指導者

■流れおよび全体像

70分ゲームで行われる。1回戦から決勝まで5連戦というタフな大会である。

■課題の発見と分析

【攻撃】

○相手DFラインと駆け引きができるFWの重要性

勝ち上がるチームのFWはDFラインと駆け引きができると感じた。DFの背後からプレーを始めたり、自分が受けたい場所でボールを受けるためにオフの動きで相手を逆に歩かしたりしていた。背後へ抜け出すばかりのFWやギャップに落ちてくるばかりのFWでは、怖さがなくDFラインを突破することができず、ゴールにつながらない場面が多く見られた。

そのFWの動きを見逃すことなく、そこへパスを出せる出し手の存在も重要である。

○ゴールへ向かうこと、仕掛けることの重要性…相手の守備状況に応じた攻め方

相手コート高い位置で数的有利や数的同数な状況においても目の前に相手がいると簡単にボールを下げてしまう場面が多く見られた。相手に仕掛けることでDFのバランスが崩れ、味方がフリーになったり、味方につられて自分が突破できたりする。まずはゴールへの最短の道を見逃さないことが重要であると感じた。ビルドアップでも同様に、空いているスペースをただ使っているだけ（DFラインとサイドハーフでのパス交換）であり、ボランチが空いているのに縦パスを入れない場面が見られた。チームの戦い方はそれぞれであるがシンプルにゴールを目指すことは大切であると感じた。

## 【守備】

### ○ボールを奪うことに対する意識の低さ・迫力の無さ

今回の視察で印象的だったことは、球際の迫力を感じなかったことである。ボールを奪う状況を一度たりとも作れずボールを廻されシュートを打たれるシーンを何度か見た。ボールの移動中に、ボール保持者の状況とマークする相手を見て自分の背後を確保し、ボールを奪える距離まで前に力をもって寄せられる選手が少ないと感じた。ボールを奪う意識を高くすることで、攻守両面の成長に繋がると感じた。「デュエル」という言葉を最近よく耳にするが、これからの日本のサッカーのレベルアップのために、ボールを奪える間合いを作り、チャンスを逃すことなく奪うことはとても重要な要素であると考ええる。

## 【切り替え】

### ○ボールを失った直後にボールを奪い返すための周囲の準備と奪った後の前方へのプレー

攻撃していてボールを奪われた後、すぐに奪い返すとビックチャンスになっていた。

ボールを奪った側は、攻撃に移るために幅を取るなど、前にボールを運ぶ準備にかかる。その時にボールを奪い返すと、守備から攻撃に移ろうとしていたチームの守備のバランスが崩れているため、ゴールに向かってプレーすることで得点に繋がっていた。

上記のプレーを実現するためには、攻撃しているときの守備への準備（ポジショニング）が重要であり、ボールから一番遠い選手がいかにか前の味方を動かし、フリーの相手とスペースを埋めて DF・MF・FW がコンパクトな状況を保てるかが重要である。その準備をしておくことがボールを奪ったときの良い攻撃の景色に繋がってくる。

奪った後のプレーがただボール保持のためではなく、攻撃に移ろうとしてバランスの崩れた守備を突破するために前方にプレーされることが得点に繋がる。

## 【神奈川県との大きな差】

### ○止める・蹴るの技術と相手を見て判断するスピードのはやさ

- ・止める … 次のプレーにスムーズに繋がる 1st タッチの置き場所と身体の運び
- ・蹴る … ピンポイントで味方の動きの邪魔をしない足元に渡る正確なキック
- ・判断力 … 受け手と出し手で相手を見て、相手の 1 つ先を考えたプレー  
ダイレクトの選択肢がある

静岡と神奈川のビックチャンスの回数には大差はなかったが、試合の中で上記 3 点について差が生じていたと感じた。特に判断力という意味では、パスコースを探す選手と展開を探す選手の差が出たように思う。

### ○ボールをゴールに向かって全体で動かすイメージがある

相手を見て局面を打開すること、パスか仕掛けるかの判断の連続、ゴールを目指すこと

が全体で共有されていたと感じた。シンプルであるが相手を見て受け手と出し手が合わせられるかが重要であると感じた。

## ■提言

### ○仕掛けながらパスが出せる選手の育成

厳しい戦いの中で結果を残していくためには、点をとるために自分でも仕掛けて、味方も使えるという力が必要である。マークが激しくなる中でも相手と駆け引きができる選手を育てる必要がある。両方できる選手の存在が勝敗を分けると感じる。

### ○ボールを奪うことができる選手の育成

…相手がボールを保持している時は味方は1点も奪えない。

普段の練習からボールを奪うことの楽しさ・面白さを経験させ、ゲームの中で勝つことを楽しむ環境を提供することで「ゴールを奪う」と同じくらい価値のある「ボールを奪う」という武器を身につけさせる必要がある。

### ○止める・蹴る・運ぶ技術の向上（攻撃方向があり、常にプレッシャーがある中での）

ボールの特性、身体の特性を理解し、多くボールに触り、ゲーム中に動きながら相手がいる中でゴールを奪い、ボールを守るための技術としての技術を、相手のプレッシャーがある中で、何度も反復することによって身につける必要がある。

### ○判断力の強化（頭のはやさ）

ゴールを奪い、ゴールを守るという目的のために、自分の武器を使い、ゲーム（試合）の中で、常に相手より先を考え、相手を見てプレーすることを指導者が求め、選手から判断を奪わないようにすることで判断力が育つと感じる。指導者が選手を見て、チームの決まり事（規律）をつくり、その中でプレーさせることも判断力をあげる上で重要であると感じる。

### ○試合の状況を見て戦い方を変えられる選手の育成

自分たちのスタイルを貫くことも重要であるが、試合の流れや状況に応じてペースを自分たちに持ってくるために奇襲を仕掛けたり、相手のサッカーを崩したりすることができる選手を育てたい。そのために様々なスタイルのチームと試合を経験させ、選手自身が感じて考えて、成功を導きだすことを積み重ねることが重要であると感じる。

今回の視察を通して「相手」を見てサッカーができる判断力のある選手を育てることが重要であると強く感じた。これからも、サッカーに対する熱い気持ちと真摯な姿勢を持って、選手とともに成長していきたい。